

エコアクション21

環境経営レポート



令和5年度

(令和5年1月～令和5年12月)

発行日: 令和6年3月27日

北辰建設株式会社

目 次

1	環境経営方針	1	ページ
2	組織の概要及び認証登録の対象組織、活動	2	ページ
	(環境活動実施体制図)	3	ページ
3	環境経営目標	4	ページ
4	環境経営計画	5	ページ
5	環境目標の実績	6	ページ
6	環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営目標	7	ページ
7	環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	8	ページ
8	代表者による取組状況の評価及び見直し	9	ページ

1.環境経営方針

企業理念

我々は、建築工事の活動を通じて、日々技術を向上することにより豊かな環境整備を目指し、次世代に継承するように努めます。

行動方針

1. 電力、燃料の削減によりCO₂排出削減に努めます。
2. 廃棄物の分別回収を促進し減量化を推進します。
3. 節水に努めます。
4. 環境経営の継続的改善を誓約します。
5. 建築を通じて環境に配慮した社会貢献を図ります。
6. 関連法規を遵守します。

制定日
平成24年8月21日

改定日
令和4年4月1日

代表取締役

谷口 頼幸

2. 組織の概要及び認証登録の対象組織、活動

事業所名 北辰建設 株式会社

代表者名 代表取締役 谷口 頼幸

所在地 〒812-0882
福岡県福岡市博多区麦野4丁目3番1号

環境管理責任者 梶原 一芳
及び連絡先 TEL : 092-581-5231
FAX : 092-581-5304

事業規模 資本金 : 2500万円

	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
完工高	百万円	352.0	709.0	784.0
従業員数	人	6	6	7
事務所床面積	m ²	119.52	119.52	119.52

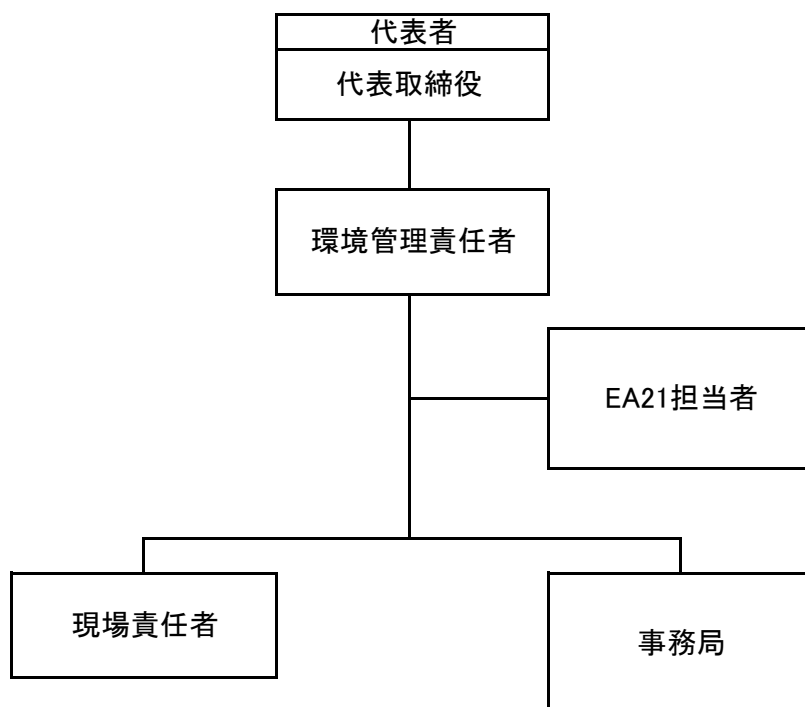
事業年度 1月～12月

事業活動の内容 建築工事業

認証の対象 全組織全活動を対象とする。
・対象組織 本社
・対象活動 建築工事業

実施体制図

組織図



機能表

所属	役割・責任・権限
代表者	・代表者として環境経営全般の責任と権限を持つ
	・環境経営方針を作成し、従業員に周知、徹底する
	・環境経営管理責任者及びEA21担当者を任命する
	・環境への取組みを実施するための資源(人・もの・金)を準備する
	・EA21全体の取組み状況に関し、評価・見直しを実施する
環境管理責任者	・EA21ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築・実行・環境実績を向上させる
	・環境経営目標、環境経営計画を作成する
	・6ヶ月に1回、環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実行状況を確認する
	・取組結果を代表者に報告する
EA21担当者	・環境経営管理責任者の補佐。
	・EA21文書及び記録、データの作成・維持・集計・管理を行う
現場責任者	・建設現場における環境経営システムの実施
	・建設現場における環境経営方針を周知する
	・建設現場の従業員及び下請従業員への教育訓練の実施
	・建設現場の問題点の発見・是正・予防処置の実施
事務局	・事務所における環境経営システムの実施
	・事務所における環境経営方針の周知
	・社内の環境負荷の把握
	・事務所内の問題点、是正・予防処置の実施

3. 令和5年度の環境経営目標

* 九州電力の2020 年度排出係数(0.480kg-CO₂/kwh)を使用している。

環境目標項目			区分	単位	基準年	中長期目標				
					令和4年度 (実績)	令和5年度 (0.5%削減)	令和6年度 (1.0%削減)	令和7年度 (1.5%削減)	令和8年度 (2.0%削減)	
					令和4年1月～ 令和4年12月	令和5年1月～ 令和5年12月	令和6年1月～ 令和6年12月	令和7年1月～ 令和7年12月	令和8年1月～ 令和8年12月	
1	二酸化炭素排出量削減			kg-CO ₂	33,996	33,826	33,656	33,486	33,316	
	(1)電気使用量削減	事務所	kWh	10,476	10,424	10,371	10,319	10,266		
		現 場	kWh	8,895	8,851	8,806	8,762	8,717		
	(2)ガソリン使用量削減	事務所	ℓ	3,958	3,938	3,918	3,899	3,879		
		現 場	ℓ	5,360	5,333	5,306	5,280	5,253		
	(3)軽油使用量	現 場	ℓ	1,194	1,188	1,182	1,176	1,170		
2	廃棄物排出 量の削減	(1)一般廃棄物	事務所	kg	69	69	68	68	68	
		(2)産業廃棄物	現 場	t	151	150	149	149	148	
3	水使用量の削減		事務所	m ³	44	44	44	43	43	
			現 場	m ³	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
4	環境に配慮した設計・施工の 実施		現 場	件数	1提案／1現場	1提案／1現場	1提案／1現場	1提案／1現場	1提案／1現場	
5	建設リサイクル率の向上		現 場	%	73%	75%	75%	75%	75%	
6	周辺の清掃実施		事務所	%	100%	100%	100%	100%	100%	
			現場	%	100%	100%	100%	100%	100%	

4. 令和5年度 環境経営計画

取組目標	サイト 区分	取組項目	日程等	
1. 二酸化炭素排出量削減			責任者:梶原	
電力	事務所・ 現場	昼休み退社時の不要照明電源OFF	通年	
		エアコンのフィルター清掃 1回／6ヶ月	年2回	
		エアコン設定温度 冬23℃夏28℃	通年	
		パソコンの省電力設定	通年	
		夜間、休日はパソコン等主電源を切る	通年	
	現場	現場内通路照明は最低限度にする	通年	
		仮設事務所照明は昼休み、退社時消灯	通年	
		電動機器のON,OFFの徹底	通年	
	ガソリン	事務所・ 現場	急発進加速をしない	通年
			タイヤ空気圧の定期確認	通年
駐車、停車時エンジン停止			通年	
適正な車両整備を行う			通年	
外出時には省エネを考慮した計画			通年	
軽油	現場	昼休み、作業中断時発電機の停止	通年	
		運搬計画書によりエネルギー消費を抑える	通年	
2. 廃棄物排出量削減			責任者:梶原	
一般廃棄物	事務所	分別の徹底	通年	
		分別・リサイクルの徹底	通年	
		ペットボトルの蓋を回収する	通年	
		コピー紙は裏紙を利用する 購入の際は再生紙を優先する	通年	
産業廃棄物	現場	産業廃棄物の分別を徹底する	通年	
		建設資材発注時に数量再チェックする	通年	
		使い捨て製品の利用を抑制する	通年	
		再使用、リサイクル製品の優先使用	通年	
		工事期間中の混合廃棄物を極力抑える	通年	
3. 水使用量削減			責任者:梶原	
上水	事務所	節水シール、節水コマ	通年	
		洗車は必要最小限度とする	通年	
		水道管の漏水を定期的に点検する	通年	
	現場	バルブの調整により水量を減らす	通年	
		建設機械の洗車はまず泥を落として行う	通年	
		洗車のホースにはストッパーを付ける	通年	
		仮設水道は定期的に漏水を点検する	通年	
4. 環境に配慮した設計・施工の実施			責任者:梶原	
	現場	1現場につき1つ提案する	通年	
5. 建設リサイクル率の向上				
	現場	廃棄物の分別、再資源化の高い勝利業者に委託	通年	
6. 環境への積極貢献			責任者:梶原	
清掃	事務所	事務所周辺の清掃を毎日実施する	通年	
		詰め替え商品を使用する	通年	
	現場	現場周辺の清掃を毎日実施する	通年	

5. 環境経営目標の実績

環 境 目 標				令和5年1月～令和5年12月			
				目標	実績値	判定	結果の評価
1	二酸化炭素排出量削減 (kg-CO ₂)			33,826	53,163	×	現場が遠方(佐賀・北九州)で、ガソリン等の使用量が増加した。
	電気使用量 (kwh)	事務所	10,424	7,636	○	適正使用されている。	
		現場	8,851	7,606	○	適正使用されている。	
	ガソリン使用量 (ℓ)	事務所	3,938	3,497	○	適正使用されている。	
		現場	5,333	7,118	×	遠方の現場によりガソリン使用量が増加した。	
	軽油使用量 (ℓ)	現場	1,188	8,225	×	現場での特殊重機の使用により軽油の使用が増加したが適正使用であった。	
2	廃棄物	一般廃棄物の排出量の削減 (kg)	事務所	69	69	○	適正使用されている。
		産業廃棄物の排出量の削減 (t)	現場	150	151	×	数値的には増加となっているが、ほぼ昨年並みであった。
3	水使用量の削減(m ³)		事務所	44	38	○	適正使用されている。
			現場	1	126	×	現場の状況により水の使用量は増加しているが適正使用であった。
4	環境に配慮した設計・施工の実施		現場	1提案／1現場	○	○	現場毎に考えられています。
5	建設リサイクル率の向上		現場	95%	80%	×	現場の内容により再資源化が少ない場合もある。
6	周辺の清掃実施		事務所	毎日	100%	○	実行されている。
			現場	毎日	100%	○	実行されている。

※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数は、0.480kg-CO₂/kWh(九州電力 2020年度・調整後)を使用した。

6. 環境経営計画の取組結果とその評価、 次年度の取組み内容

取組目標		取組項目		今年度の取組結果評価		次年度の取組み	
1. 二酸化炭素排出量削減							
電力	事務所	昼休み退社時の不要照明電源OFF	○	活動項目については、 福岡市に登録したWell-being & SDGsも踏まえ社員全員で環境に配慮した取り組みを確認しながら実施している。 リース車両についてはアイドリングストップの車両を利用するなどしてガソリンの消費削減を図っている。	引き続き環境に配慮した取り組みを心がけます。 ガソリンについては社員も増えましたが今後も環境活動計画の実施に努めます。		
		エアコンのフィルター清掃 1回／6ヶ月	○				
		エアコン設定温度 冬23℃夏28℃	○				
		パソコンの省電力設定	○				
		夜間、休日はパソコン等主電源を切る	○				
	現場	現場内通路照明は最低限度にする	○				
仮設事務所照明は昼休み、退社時消灯		○					
電動機器のON,OFFの徹底		○					
ガソリン 軽油	事務所	急発進加速をしない	○				
		タイヤ空気圧の定期確認	○				
		駐車、停車時エンジン停止	○				
		適正な車両整備を行う	○				
		外出時には省エネを考慮した計画	○				
	現場	昼休み、作業中断時発電機の停止	○				
		運搬計画書によりエネルギー消費を抑える	○				
2. 廃棄物排出量削減							
一般廃棄物	事務所	分別の徹底	○	分別の徹底・リサイクルは出来ている。	今期は完成工事高の増加や現場の状況により廃棄物に関しては数値の単純比較は難しくはありましたが、日頃から環境活動計画に沿って更に努力します。		
		分別・リサイクルの徹底	○				
		ペットボトルの蓋を回収する	○				
		コピー紙は裏紙を利用する 購入の際は再生紙を優先する	○				
産業廃棄物	現場	産業廃棄物の分別を徹底する	○				
		建設資材発注時に数量再チェックする	○				
		使い捨て製品の利用を抑制する	○				
		再使用、リサイクル製品の優先使用	○				
		工事期間中の混合廃棄物を極力抑える	○				
3. 水使用量削減							
上水	事務所	節水シール、節水コマ	○	現場は工事の状況により水の使用量が増えましたが適正使用がなされていました。	今後も環境活動計画の実施に努めます。		
		洗車は必要最小限度とする	○				
		水道管の漏水を定期的に点検する	○				
	現場	バルブの調整により水量を減らす	○				
		建設機械の洗車はまず泥を落として行う	○				
		洗車のホースにはストッパーを付ける	○				
	仮設水道は定期的に漏水を点検する	○					
4. 環境に配慮した設計・施工の実施							
	現場	1現場につき1つ提案する	○	地域の一花運動に参加した	現場ごとに計画提案する。		
5. 建設リサイクル率の向上							
	現場	廃棄物の分別、再資源化の高い処理業者に委託	○	環境活動計画に沿って努力します。	引き続き環境活動計画に沿って努力します。		
6. 環境への積極貢献							
清掃	事務所	事務所周辺の清掃を毎日実施する	○	習慣化している。	引き続き環境活動計画に沿って更に努力します。		
		詰め替え商品を使用する	○				
	現場	現場周辺の清掃を毎日実施する	○				

当事業所において行った取り組み



7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりである。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、(建設系廃棄物、副産物)
建築リサイクル法	解体工事
オフロード法	特定自動車
大気汚染防止法	解体工事
水質汚濁防止法	セメント抄造施設等
騒音規制法	くい打ち機・削岩機・コンクリートプラント・バックホウなど(重機)
振動規制法	くい打ち機・ブレーカーなど(重機)
自動車リサイクル法	使用済自動車
家電リサイクル法	使用済家電
フロン排出抑制法	業務用エアコン

上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8. 代表者による取組状況の評価及び見直し

北辰建設株式会社は、エコアクション21の認定・登録を取得し経営計画に沿って継続運用しております。

令和5年度の評価としては、目標の未達成が多くみられましたが、工事内容の特殊性及び完成工事高の増加等により正確な比較には至っておりません。

現場においては、地理的及び立地状況・工事内容等により数字として反映されない場合もありますが多様な状況下でも環境経営計画に沿って削減の努力を致します。

環境経営システムの構築及び運用に関しては、エコアクションの活動も10年を超え社会全体の環境に対してもSDGsを踏まえた環境問題に配慮する自覚が定着してきました。

福岡市のWell-being&SDGsにも登録をして引き続き環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画に沿って活動致します。

完成工事高が基準年より大幅に増加することもあり、現場の立地条件及び工事の種類等により見直しが必要となり、その際は改善を行います。

今後も、自然環境に配慮した環境経営システムを運用し、社会に貢献する事業者として努力致します。